

# 大腸カプセル内視鏡検査

## ■ カプセル内視鏡検査とは



カメラを内蔵したカプセルを口から飲み込む内視鏡検査です。苦痛の少ない検査で、カプセル内視鏡が肛門から自然排出された場合、またはカプセル内視鏡のバッテリーが切れた場合に検査が終了となります。（自然排出するまでの時間は患者さまによって異なります）

カプセルは消化管を通過しながら画像を撮影し、腹部につけたセンサーから腰に付けた記録装置に撮影画像を転送して、この画像をもとに大腸疾患の診断を行います。

カプセル内視鏡には大腸検査用と小腸検査用があり、当院は両方を備えています。

## ■ 検査のながれ

※カプセル内視鏡検査を実施する場合は、事前に診察を受けていただき、検査予約が必要です。

### 検査前日



#### Step 1

便になりにくい食事の摂取と、指定された下剤の服用をします。

### 検査当日



#### Step 2

医療スタッフがセンサーを腹部に貼付し、記録装置をベルトで腰に取り付けます。



#### Step 3

カプセル内視鏡を適量の水で飲み込んでいただきます。その後も下剤や消化管の運動を促進する薬剤を服用し、カプセルの自然排出を待ちます。

※使用済みのカプセル内視鏡は、回収キットで回収後、医療廃棄物として当院で廃棄します。

### 検査後日（診断）



#### Step 4

記録装置に保存された画像データをコンピュータで読影し、診断を行います。

## ■ 大腸カプセル内視鏡検査の利点と欠点

### 利点

- ・検査時に痛みを伴わない
- ・羞恥心のために検査を敬遠しなくてよい
- ・自然な状態の大腸を観察できる

### 欠点

- ・滞留の危険がある（※1）
- ・多量の腸管洗浄液の服用が必要である
- ・病変が発見されれば、改めて内視鏡検査が必要である

（※1）消化管に狭窄（腸の内腔が狭くなった状態）があった場合、滞留（狭窄部でカプセル内視鏡が溜ってしまうこと）する可能性があり、その場合はカプセル内視鏡を取り出す処置（内視鏡、外科的手術等）が必要になります。

## ■ 大腸カプセル内視鏡検査が保険適応になる方

- ・大腸内視鏡検査が必要であり、大腸ファイバースコープを実施したが、腹腔内の癒着等により回盲部まで到達できない患者さま
- ・大腸内視鏡検査が必要であるが、腹部手術歴があり、癒着が想定される場合等、器質的異常により大腸ファイバースコープが実施困難であると判断された患者さま

【参考】カプセル内視鏡検査費用・保険適応（3割）の場合

→ カプセル内視鏡・検査費用 約3万円 + 初・再診料、薬剤費等が必要です。

※費用は内容により異なります。

ご相談・ご質問は内科外来までお気軽にお問い合わせください。

TEL (0859) 29-1100 (代)